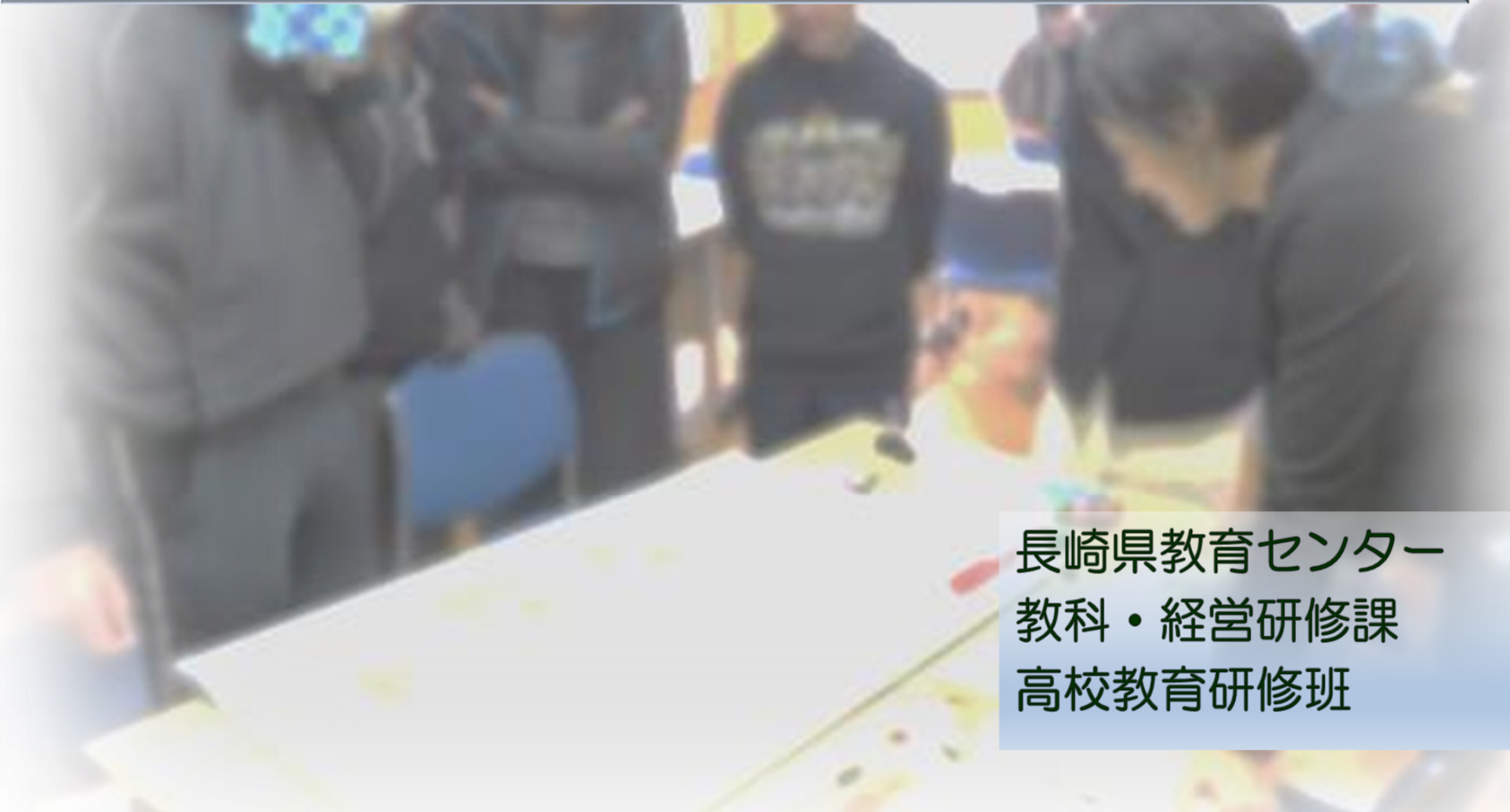


高等学校における校内研修 (授業研究) の在り方について



長崎県教育センター
教科・経営研修課
高校教育研修班

1. 目的

高等学校における、新学習指導要領で求められる資質・能力を育むための授業改善を目指した授業研究の在り方について調査・研究を行い、その成果の発信・浸透を図り各校の校内研修の充実に資する。

2. 令和元年度の調査研究 ～高等学校の実態調査結果から～

◆ 県立高等学校（66校）にアンケート調査を実施

➤ 授業改善に向けた授業研究はこのままでよい（22校）

➤ 授業研究が十分に行われていない（44校）

〈理由〉

「十分に時間が取れない」

「効果的な研修方法が見つからない」

「教師間の意識にばらつきがある」

3. 令和2年度の調査研究

◆2年次（令和2年度）の目的

研究協力校（2校）に対して、それぞれの学校の実情に応じた校内研修を提案・支援することで、効果的な校内研修（授業研究会）の実践方法について探る。

◆方法

- ア 研究協力校への校内研修の実践方法についての提案
- イ 研究協力校による校内研修の実践
- ウ 教育センターと研究協力校による実践の分析・研究

3. 令和2年度の調査研究

【これまでは・・・】

- ・ 教師の技術面中心のアドバイスになっている。
- ・ 時間がなく、授業に参観した先生方に個別の意見を聞くだけになっている。
- ・ 教科内での授業研究会にとどまっている。など



【これからは・・・】

- ・ 生徒の学びに焦点を当てることが必要。
(教師がどう教えるかではなく生徒がどう学ぶか)
- ・ 限られた時間で効果的な学び合いができる。
- ・ 学校全体で教科の枠を越えて育成したい資質・能力を意識することが大切。

(1)協力校での取り組み（実践事例A）

校内研修Ⅰ（令和2年6月）

ワールドカフェによる研修

- ・リラックスした雰囲気、テーマに集中した対話が可能
- ・メンバーの組み合わせを変えながら行うので、全員が話し合っているような効果がある

育成したい資質・能力の設定

第1ラウンド（20分）：テーマについて自由に語り合おう



テーブルホストを残して旅人は他のテーブルへ

第2ラウンド（20分）：アイディアを他家受粉しよう



旅人は元のテーブルへ

第3ラウンド（20分）：集合的な発見を収穫し、共有しよう



全体セッション（15分）：気づきや発見を統合しよう

参考文献：ワールド・カフェをやろう 新版 香取一昭 大川恒 著（日本経済新聞出版社）

【成果と課題】

○年齢、経験年数に関係なく話し合うことができた。

△育成したい資質・能力の発表（全体セッション）の時間が足りなくなった。

(1)協力校での取り組み（実践事例A）

校内研修Ⅱ（令和2年7月）

授業研究会を活性化させる研修

- ・ワークショップ型研修で一人ひとりの意見を出し合うラウンドスタディー（ワールドカフェ方式）

授業研究会の実施

研究授業（国語）

研究授業（生物）

ラウンドスタディー（国語の参観者）

ラウンドスタディー（生物の参観者）

評価シート（意見・感想等）を
研修部に提出

評価シートの取りまとめ・配布（研修担当）：全職員での成果の共有

参考文献：ラウンドスタディー 教師の学びをアクティブにする授業研究 石井英真 原田三朗 黒田真由美編著（東洋館出版社）

【成果と課題】

- 同じ時間で**複数の授業研究会を効率的に実施**できた。
- △授業者と**同じ教科の教師**がホストを担当すると、話題が生徒の学びよりも**教師のテクニックなどの専門的内容に集中する**傾向あり。
- △授業観察の際に教室後方で授業者を見ている先生方が多く、生徒の様子よりも、生徒と同じ目線で授業を受けている。

(1)協力校での取り組み（実践事例A）

校内研修Ⅱ（令和2年7月）

校内研修Ⅱ（令和2年7月）

評価シート

授業研究会の
ルーブリック

自由記述欄

資料1 参照

校内研修Ⅱ

Round Study Round E

氏名

テーマ：協働して学びを深める（国語科：〇〇 〇〇教諭）

1. それぞれの項目について、あてはまるところを○で囲んでください。

評価	課題の探究 [内容1]	課題の探究 [内容2]	課題の探究 [手法]	コミュニケーション
5	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿が大変明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で大変参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために大変有効であった。	会話や議論を大いに楽しむことができた。
4	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿がますます明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上でますます参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにますます有効であった。	会話や議論をますます楽しむことができた。
3	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿が見えてきた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために有効であった。	会話や議論を楽しむことができた。
2	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿がまだ不明確に感じられた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上であまり参考にならなかった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにあまり役立たなかった。	会話や議論をあまり楽しむことができなかった。
1	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿がほとんど明らかにならなかった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで、ほとんど参考にならなかった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにほとんど役立たなかった。	会話や議論をほとんど楽しむことができなかった。

2. 自由記述

本時の授業研究会の内容について、Round Study の手法についてなど、どんなことでも結構ですので、考えたこと、感じられたこと、ご意見など、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

先生方にいただいたご意見を集約し、成果物としてのニュースレターを後日配布します。

(1)協力校での取り組み (実践事例 A)

校内研修Ⅱ (令和2年7月)

校内研修Ⅱ ニュースレター Round E

2020/07/29

令和2年7月20日(月)実施した校内研修Ⅱにおいて、
めています。

Round Study 1 協働して学びを深める(国語・○○教訓)のまとめ

◆○○先生のコメント

他教科と関連づけつつ、(今回でいうと古文と日本史)かつ国語的な思考法や解答の導き方を行わなければならないということに気づけたことが大きな収穫でした。先生方から貴重な、またユニークな意見いただき今後の授業をつくるがますます楽しみになりました。生徒の主体性を育てつつ、正しく文章を読む力をつけられるよう改善を行っていきます。ありがとうございました。

◆参加した職員のコメント

- 教科における特色を用いた視点を定めて授業を作
- 「学びながら深まる」とは？評価基準が難しい。
- 「対話的で深い学びとは何か」や有効な授業方法に
ような議論ができたのが良かった。
- 話しやすい雰囲気づくりの重要性を認識した。全員に話す機会があると、自分の意見や質問もかなりしやすいえ、勉強になったと思うタイミングが多くなるように感じた。
- 教科内での授業研究と異なり様々な教科の先生方の教科特有の視点を話し合うことができて勉強になった。
- 「学びを深めるとは？」何ができたと言うことができるのか。単純なことではないでしょうが、教科の視点を持って生徒の変化、動きを「みとる力をそれぞれが持つことが大切では」というグループ内の話し合いは大切な収穫であった。
- 自由に話すことはよいことだと思うが文字を書きながらだと話が広がりやすくそうフリーに話した方がよさそう。
- 時間が足りず、内容をこれから深めていくというところで話し合いが終わってしまった。意見を集約するだけでも時間がかかるので、もう少し時間が欲しかった。
- 他教科の先生や様々な年代の先生と話すことができ、視野が広がった。
- 先生方とふだんのように話す機会がなかなかないので、良い時間を過ごすことができた。
- 他教科との関わりをたくさん持てたと思う。授業においても横断的にできるといいと思った。
- 教科を越えて話し合いができたことは大変良かった。いろいろなことで有意義な時間だった。日本史と古文、世界史と音楽等コラボできると素晴らしいと思う。楽しい授業(アクティブな授業)になるだろうと思う。
- 教科を越えて実施したのは良かったと思う。「教科の枠を越えて授業をしよう」という話はいつも出るが結局実施できない(教員に余裕がない)
- 本日は国語・理科の研究授業に参加し、生徒が主体的・協働的に学んでいく姿がどちらも見る事ができた。

授業者のコメント

参観者のコメント

参観者の評価

◆アンケートの結果

評価	課題の探究 [内容1]	課題の探究 [内容2]	課題の探究 [手法]	コミュニケーション
5	本時の授業研究会を通して(協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策)が非常に明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で大変参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために大変有効であった。	会話や議論を大いに楽しむことができた。
4	本時の授業研究会を通して(協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策)が非常に明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で大変参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために非常に有効であった。	会話や議論を大いに楽しむことができた。
3	本時の授業研究会を通して(協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策)が見えてきた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために有効であった。	会話や議論を楽しむことができた。
2	本時の授業研究会を通して(協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策)がまだ不明確に感じられた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上であまり参考にならなかった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにあまり役立たなかった。	会話や議論をあまり楽しむことができなかった。
1	本時の授業研究会を通して(協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策)がほとんど明らかにならなかった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で、ほとんど参考にならなかった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにほとんど役立たなかった。	会話や議論をほとんど楽しむことができなかった。
5	29.4	36.4	26.5	50.0
4	58.8	45.5	64.7	32.4
3	8.8	15.1	5.9	17.6
2	2.9	3.0	2.9	0.0
1	0.0	0.0	0.0	0.0

◆ホストより

先生方の貴重な授業時間をいただき、初めて教科横断型の研究授業・Round Study による授業研究会を行いました。模造紙を囲んで教科の違いや年齢層の違いを超えて、先生方がそれぞれのテーマについて意見を出し合い、膨らませたり繋いだりして、ラウンドごとに議論が白熱していくところがとても印象的でした。本当にありがとうございました。今後も教科・学年・分掌などでも Round Study を導入していただける機会があれば幸いです。

主催者(ホスト)のコメント

資料2 参照

評価シートのまとめ (校内研修Ⅱニュースレターから)

評価	課題の探究 [内容1]	課題の探究 [内容2]	課題の探究 [手法]	コミュニケーション
5	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深め活用した生徒の姿・グラフを高める方策）が、大変明確になった。 (29.4%)	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で大変参考になった。 (36.4%)	Round Studyという手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために大変有効であった。 (26.5%)	会話や議論を大いに楽しむことができた。 (50.0%)
4	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深め活用した生徒の姿・グラフを高める方策）が、ますます明確になった。 (58.8%)	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で、ますます参考になった。 (45.5%)	Round Studyという手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために、ますます有効であった。 (64.7%)	会話や議論をますます楽しむことができた。 (32.4%)
3	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深め活用した生徒の姿・グラフを高める方策）が見えてきた。 (8.8%)	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで参考になった。 (15.1%)	Round Studyという手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために有効であった。 (5.9%)	会話や議論を楽しむことができた。 (17.6%)
2	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深め活用した生徒の姿・グラフを高める方策）が、まだ不明確に感じられた。 (2.9%)	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で、あまり参考にならなかった。 (3.0%)	Round Studyという手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために、あまり役立たなかった。 (2.9%)	会話や議論をあまり楽しむことができなかった。 (0%)
1	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深め活用した生徒の姿・グラフを高める方策）が、ほとんど明らかにならなかった。 (0%)	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで、ほとんど参考にならなかった。 (0%)	Round Studyという手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために、ほとんど役立たなかった。 (0%)	会話や議論をほとんど楽しむことができなかった。 (0%)

高い評価

(1)協力校での取り組み（実践事例A）

校内研修Ⅲ（令和2年10月）

授業研究会を活性化させる研修

- ・ A L（アクティブラーニング）をテーマにした授業参観
- ・ 大学准教授による講演

A Lに関する研修会の実施

○先生方の参観の様子

- ・ 校内研修Ⅱと比較して、積極的に生徒の中に入って参観する姿が多くなった。
- ・ 授業者と同じ教科の先生方の視点は、技術的な側面に意識が集中する。
- ・ 参観の視点を与えなければ、生徒と同じ目線で授業を受ける形になる方が多い。

○改善のポイント

- ・ 授業者あるいは研修担当者から参観のポイントを示す。
 - ※授業者目線ではなく、生徒目線で生徒の学びを観察する。
 - ※観察シートにポイントを生徒が主語になる表現で明記する。
 - ※授業者はこの授業で生徒にどのような資質・能力を育もうとしているのか明確にする。（評価規準と評価基準を示し、生徒・参観者と共有する）
 - ※授業研究会のテーマを絞り、明確にする。
- ・ 通常の教室よりも大きめの教室を準備する。
- ・ 回収した授業参観シートから得られた情報を職員間で共有する。

(1)協力校での取り組み（実践事例A）

アクティブラーニング週間（令和2年11月）

授業研究会を活性化させる研修

- ・ A L（アクティブラーニング）をテーマにした授業参観
期間中に授業を自由に参観する形式

A Lに関する研修会の実施

○期間中に参観した職員の数

- ・ 延べ15名（2回参観した職員2名、教諭・管理職48名中27%）
※研修部に提出された授業参観記録シートの枚数を基に計測

○授業観察シートの分析から

- ・ 詳細な観察の視点が示されていないため、様々な気づきが記録されていた。
生徒のグループ活動での良かった点（自分の授業に応用できること）
教師の指示に対する疑問
改善のアイディア
同じ教科の教師からの具体的なアドバイス など

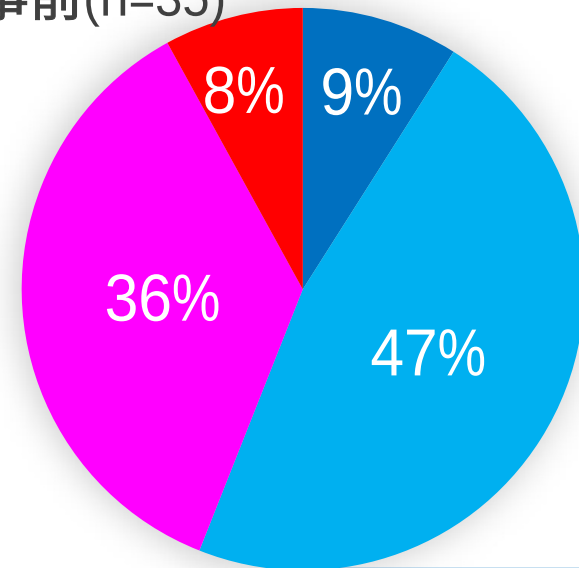
先生方の負担感がなく気軽に授業を見せ合い、互いに勉強できる
一方、参加率が低くなってしまうデメリットもある。

授業参観シートについては資料3 参照

(1)協力校での取り組み（実践事例A）

Q 1 新学習指導要領を意識した授業改善を行っていますか

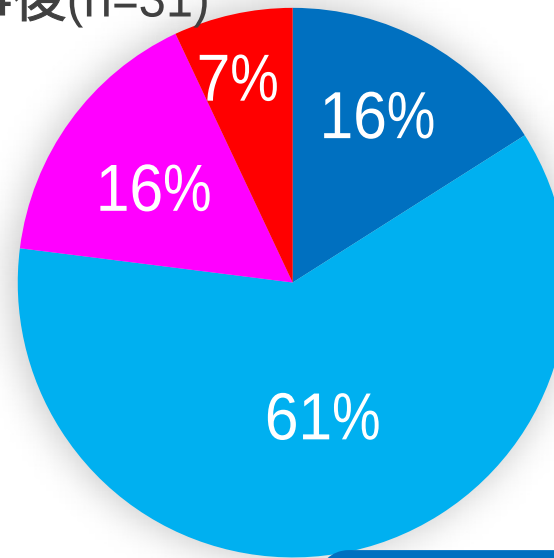
事前(n=35)



行っていない
44%

行っている
56%

事後(n=31)



行っていない
23%

行っている
↑77%

- 行っている
- どちらかといえ
ば行っている
- どちらかといえ
ば行っていない
- 行っていない

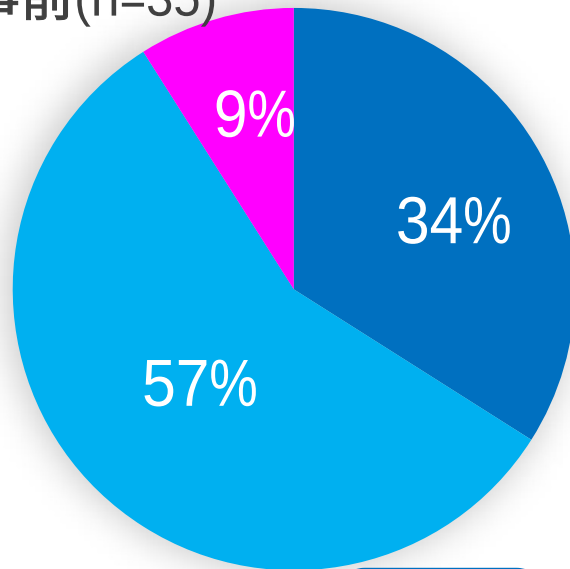
事後アンケート記述回答から

- (ウ) 考える時間的な余裕が無い。
- (ウ) 自分の授業の形を構成するところからは始めている。改良はその後だと考えている。
- (ウ) 変える必要がない教科だから。

(1)協力校での取り組み（実践事例A）

Q 2 教科内で行う授業研究会は、授業改善を進める上で有効だと思いますか。

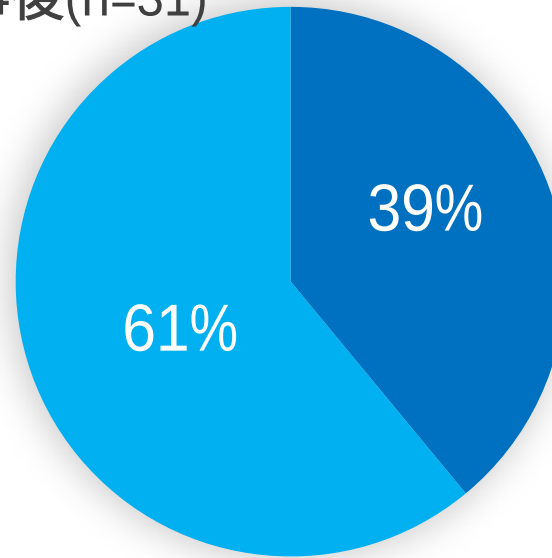
事前(n=35)



思わない
9%

思う
91%

事後(n=31)



思わない
0%

思う
↑100%

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

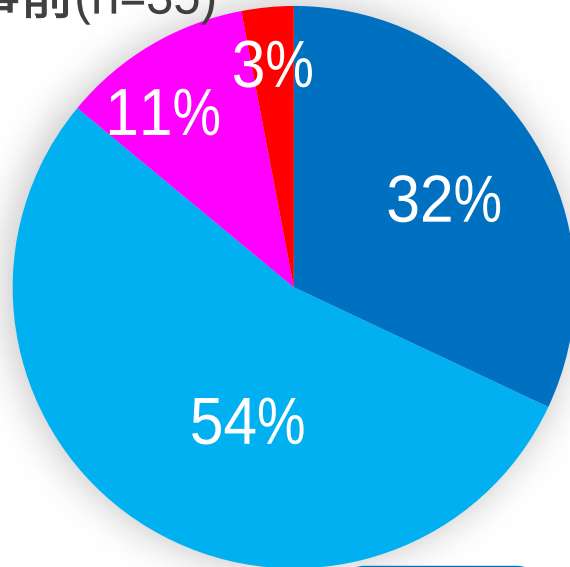
事後アンケート記述回答から

- (ア) 教科内での共通理解がなければ、指導方向に一貫性が保たれないから。
- (ア) 自分が知らないやり方が必ずあり、新しいやり方を取り入れることができるから。
- (イ) まずは同教科の意見が重要。

(1)協力校での取り組み（実践事例A）

Q3 教科の枠を越えた授業研究会は、授業改善を進める上で有効だと思いますか。

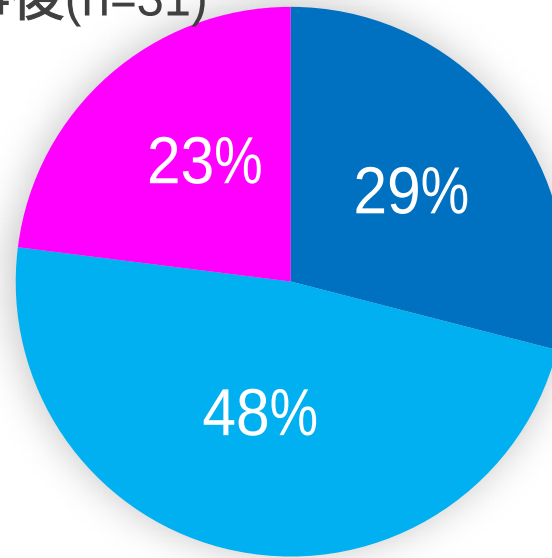
事前(n=35)



思わない
14%

思う
86%

事後(n=31)



思わない
23%

思う
↓ 77%

- そう思う
- どちらかといえば思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

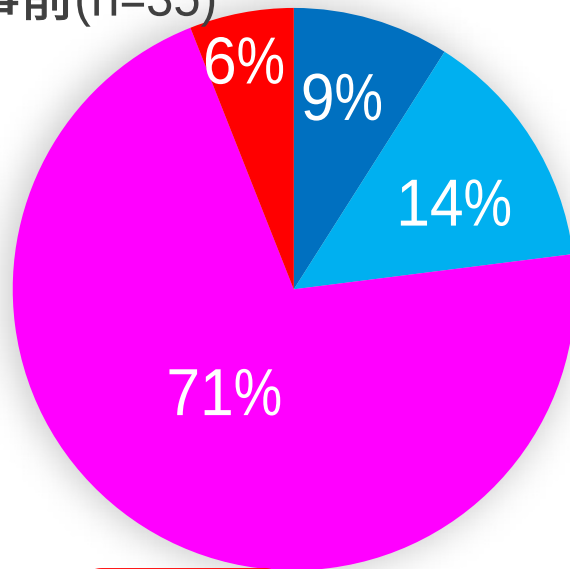
事後アンケート記述回答から

- (ア) 教科の特色もあろうかと思うが、全職員における共通の意識がなければ、学校全体としての授業改善は進まないから。
- (ウ) どんな授業改善を目指すかという目的によると思う。今回の授業研究会はあまり有効だと感じなかった。ICTを活用するという目的であれば有効であると思う。
- (ウ) 教科内をもっと充実させるべき。他教科の先生には個人的にアドバイスをもらえばよい。

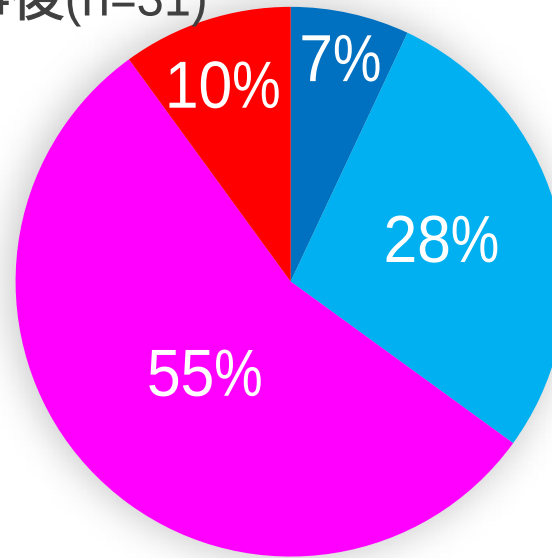
(1)協力校での取り組み（実践事例A）

Q 4 教科の枠を越えた授業研究会を行うことについてどう
思いますか。

事前(n=35)



事後(n=31)



- 容易である
- どちらかといえ
ば容易である
- どちらかといえ
ば困難である
- 困難である

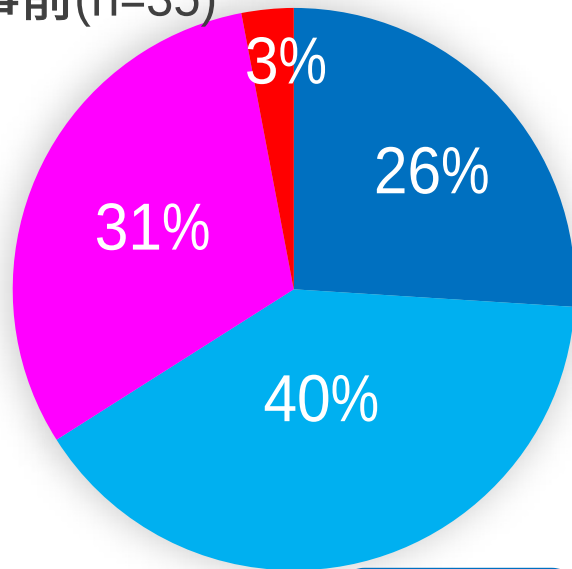
事後アンケート記述回答から

- (ウ) 時間を確保することが難しい。(他同様の記述が4名)
- (ウ) 音頭を取る人と参加者のモチベーションしだい。
- (ウ) 意見が合わない。
- (ウ) 単にグループ学習をすれば理解が深まるのではなく、それまでの準備や生徒の準備状況・理解状況等に応じた指導が必要だと感じる。ICTの活用が目的であれば容易だと思う。

(1)協力校での取り組み（実践事例A）

Q 5 教科の枠を越えた授業研究会をやってみたいと思いますか

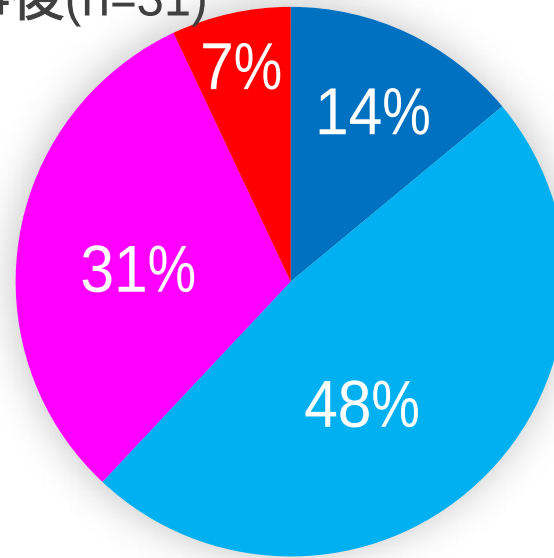
事前(n=35)



やりたくない
3 4 %

やりたい
6 6 %

事後(n=31)



やりたくない
3 8 %

やりたい
↓ 6 2 %

- やってみたい
- どちらかといえ
ばやってみたい
- どちらかといえ
ばやりたくない
- やりたくない

事後アンケート記述回答から

- (ア) 最初は強力なリーダーシップで牽引し、その後自発性を促していくという形が現実的。同じ時間帯で一斉に行うとなると、準備や調整に課題も多い。「労少なくして実り多し」がテーマである。
- (イ) 年1回でもよいので行うことで授業の活性化につながると思うから。
- (ウ) 教育センターの先生方が目的を明確にして、生徒を使って研究授業をしてくれるのであれば参加したい。

(2)協力校での取り組み（実践事例B）

令和2年3、4月

教科を越えたチームでKJ法による研修

- ・未整理の情報、アイデアの集約に効果的
- ・参加者の気づき等を反映して、自由な視点から分析できるという効果がある

育成したい資質・能力の設定

【成果と課題】

- 全職員で話し合うことで共通見解を持つことができた。
- 4月に再度行ったため新転任の先生方も共通見解を持つことができた。
- △学校で育成したい資質・能力の設定が難しい。
- △研修部がなく運営はリーダー2名が行っており、調整が大きな負担

令和2年6月～12月

短時間で実施できる研修

- ・教科横断のチーム（4～5名）で授業参観
- ・チームごとに「生徒の学びの姿」に着目して協議
- ・全職員の授業研究会で各チームの授業研究会の内容を発表

授業研究会の実施

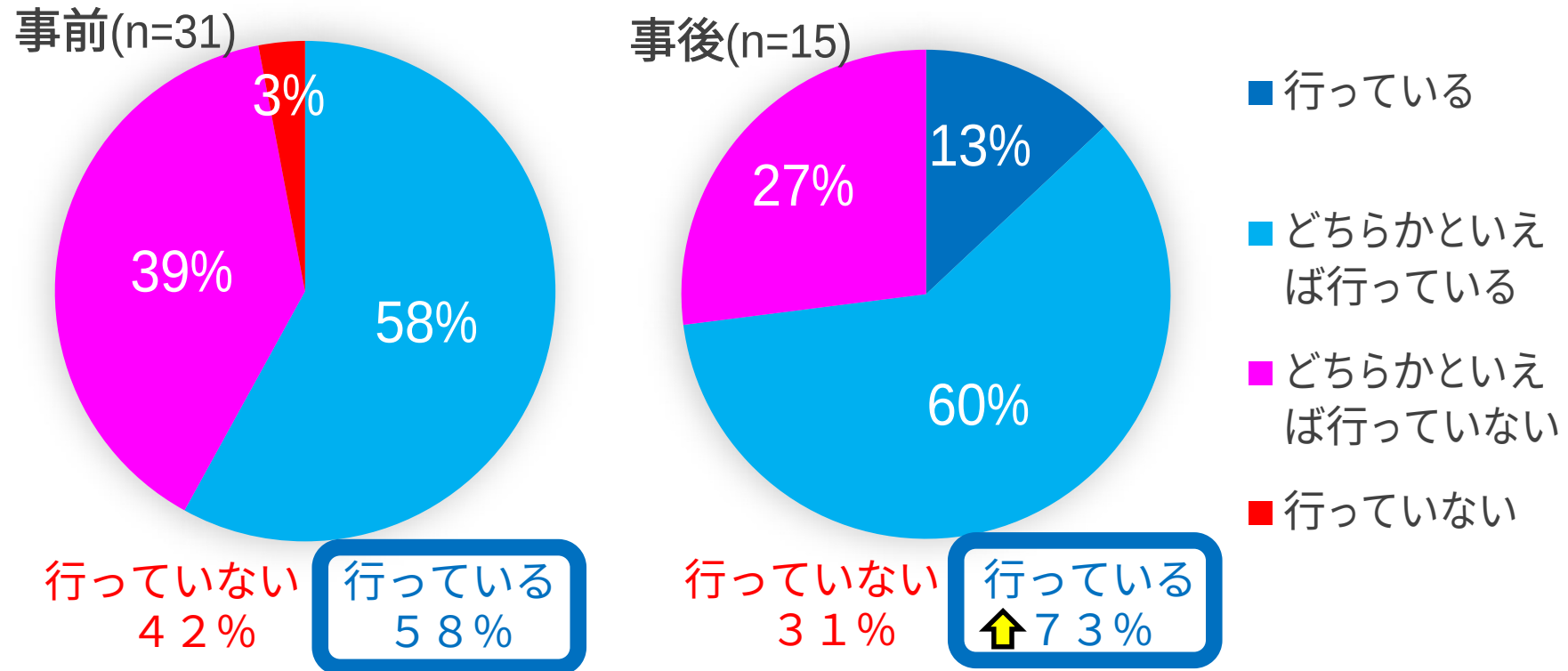
【成果と課題】

- 小グループごとの協議であったので、小回りが利いた。
- 授業略案に生徒の反応を記録する欄を設けており、観察のポイントが明確である。

授業略案については資料4、授業研究まとめのシートは5参照

(2)協力校での取り組み（実践事例B）

Q 1 新学習指導要領を意識した授業改善を行っていますか



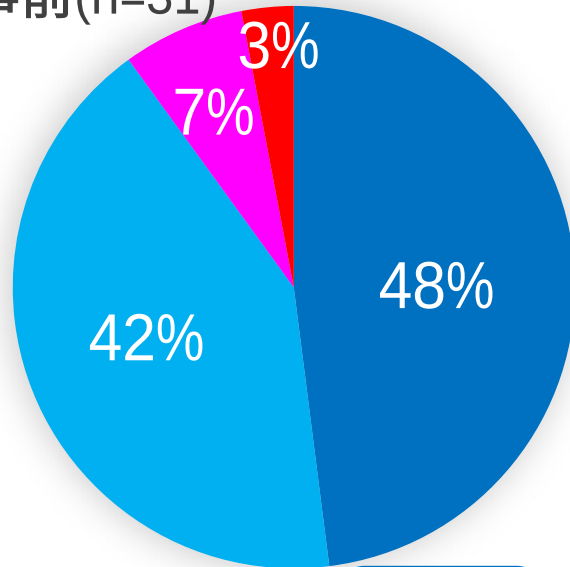
事後アンケート記述回答から

- (ア) 他教科の先生方の授業を参観し、まねしたいところはどんどん自分の授業に取り入れた。
- (イ) 授業改善という意識を持つようになったため。しかし、実際には生徒の方に意識が向き、指導要領を強く認識して取り組んだわけではなかったと反省している。
- (ウ) すでに育成を目指す資質・能力の3つの柱に沿った授業を実施している。
- (エ) 公開授業では意識したが、平常の授業には意識して取り組んでいない。

(2) 協力校での取り組み（実践事例B）

Q2 教科内で行う授業研究会は、授業改善を進める上で有効だと思いますか。

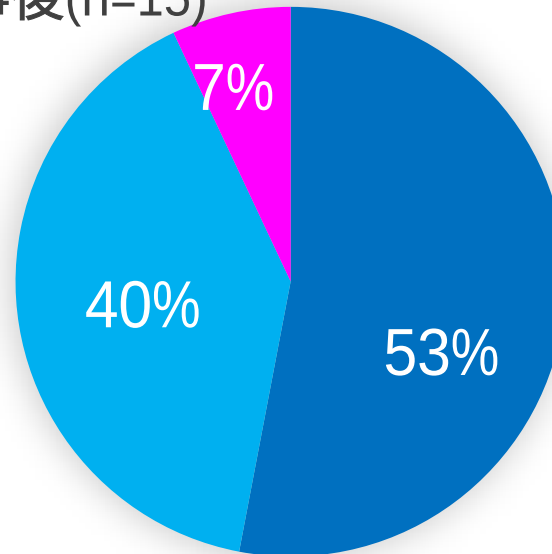
事前(n=31)



思わない
10%

思う
90%

事後(n=15)



思わない
8%

↑ 思う
93%

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

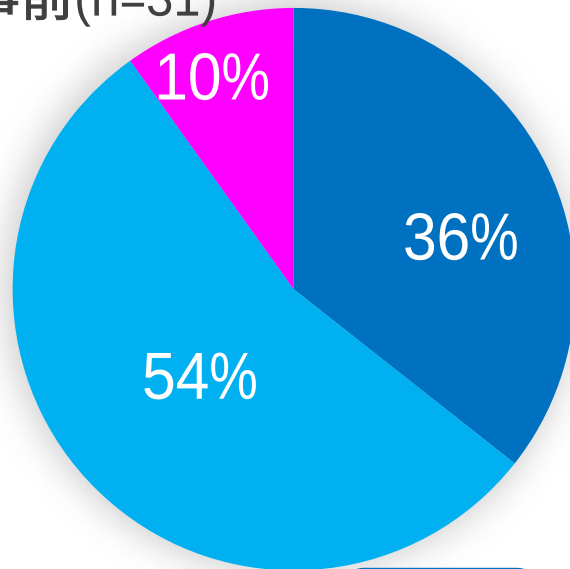
事後アンケート記述回答から

- (ア) 経験豊富な先生方からアドバイスをいただけるから。
- (イ) 教科内であれば、専門的な話もできはするが、新しい視点が足りない。
- (イ) 専門的な意見が出るし、見方ができる。

(2)協力校での取り組み（実践事例B）

Q3 教科の枠を越えた授業研究会は、授業改善を進める上で有効だと思いますか。

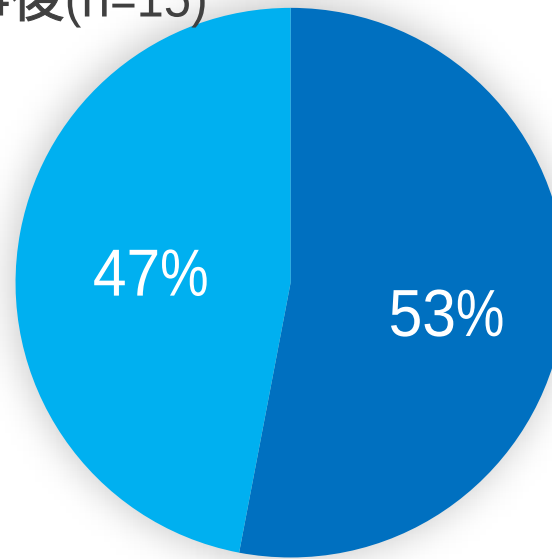
事前(n=31)



思わない
10%

思う
90%

事後(n=15)



思わない
0%

思う
↑100%

- 思う
- どちらかといえば思う
- どちらかといえば思わない
- 思わない

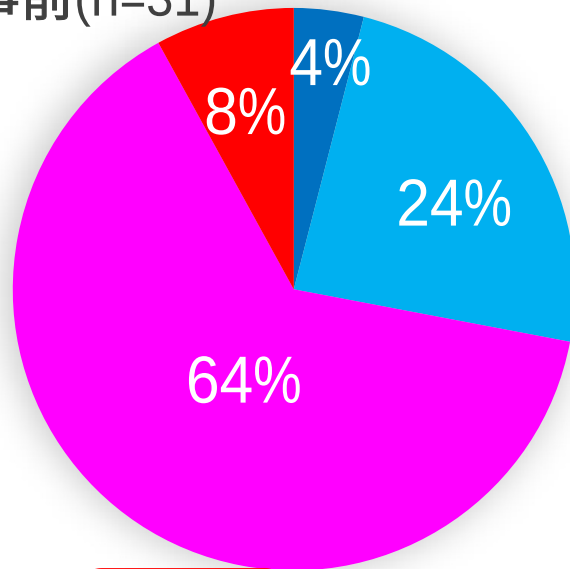
事後アンケート記述回答から

- (ア) 実際に自分が経験し、他教科の授業での生徒の様子を見ることができ、生徒理解が深まり、自分のやる気につながった。
- (ア) 普段気付かない視点でのアドバイスをいただけるから。
- (イ) 生徒への働きかけや授業形態等は参考にできると思う。

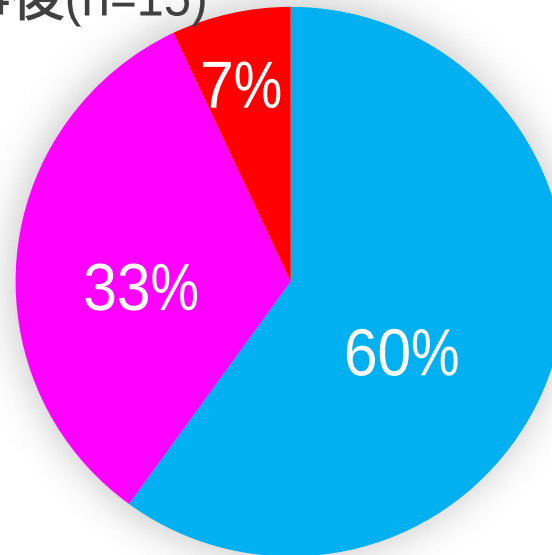
(2)協力校での取り組み（実践事例B）

Q 4 教科の枠を越えた授業研究会を行うことについてどう
思いますか。

事前(n=31)



事後(n=15)



- 容易である
- どちらかといえ
ば容易である
- どちらかといえ
ば困難である
- 困難である

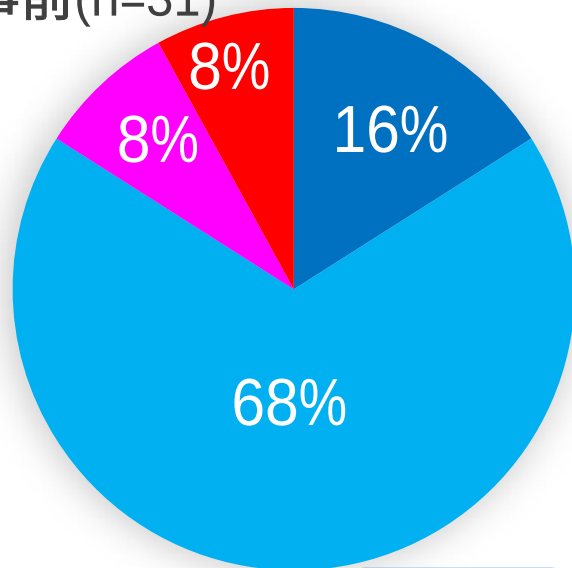
事後アンケート記述回答から

- (イ) ただ実施すればよいのであれば容易であると思う。
- (ウ) 時間的な余裕がない。
- (ウ) 時間を合わせることが難しいので、teamsを使用して意見を集約する方法もありだと思った。
- (エ) 共通の空き時間がないため、どうしても放課後になってしまう。しかし、放課後は部活動等の指導で確保できない。

(2)協力校での取り組み（実践事例B）

Q 5 教科の枠を越えた授業研究会をやってみたいと思いますか

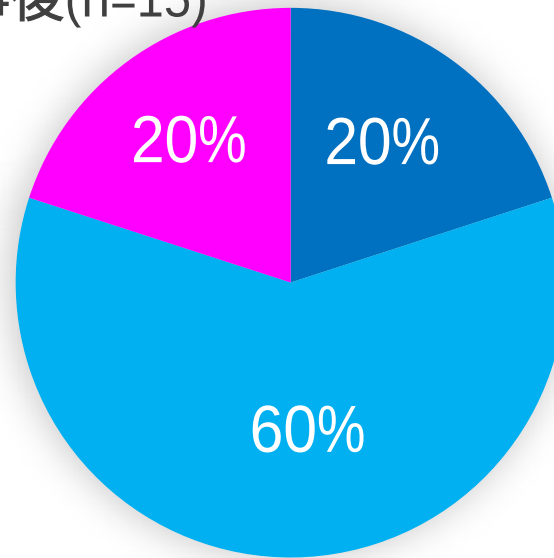
事前(n=31)



やりたくない
16%

やりたい
84%

事後(n=15)



やりたくない
23%

やりたい
↓ 80%

- やってみたい
- どちらかといえばやってみたい
- どちらかといえばやりたくない
- やりたくない

事後アンケート記述回答から

- (ア) 効果を感じられたし、参加される先生方が和気あいあいを去れてよかったから。
- (イ) 先生方の意見を聞くことで授業のヒントになるから。
- (イ) 教科横断的な授業プランを立てていくことも必要だと思うから。
- (ウ) 時間的・心理的負担を感じるため。
- (ウ) 多忙なので。

(3)成果

今年度の調査研究から以下の点が明らかになった

- ◆ 2つの具体的事例から各実践の効果および改善点が明らかになった。
 - K J 法（教科を越えた小グループによる協議）、ワールドカフェは経験年数、年齢に関係なくオープンな協議ができ、有効である。
 - ラウンドスタディーは、同時に複数の授業研究会を実施することができ、効率的である。
 - 小グループであっても、1時間単位の時間設定が困難な学校もある。
- ◆ 研修担当者の支援の必要性が明らかになった。
 - 管理職と研修担当者の役割の明確化
 - 研修担当者のコーチング力の育成
 - 研修スタイルの提案、研修で使用するスライド等のデータの提供

(4)まとめ（新規講座開講に向けて）

次年度開講する「教師が学び合う授業改善研修講座」では、理論を講義するだけでなく、模擬授業観察や模擬授業研究会を実施したり、研修会に必要な資料をデータで提供したりして、参加者にできるだけスムーズに実践していただけるようにしたい。

また、来年度から３年間行う調査研究『「教員の学び合い」の実現に向けた校内研修の在り方』では上記新規講座での実践や先進校の事例を集め、一般化し、県内高等学校に情報を提供することで教師が学び合う校内研修の浸透を図りたい。

Round Study Round E

氏名

テーマ：協働して学びを深める（国語科：〇〇教諭）

1. それぞれの項目について、あてはまるところを○で囲んでください。

評価	課題の探究 [内容 1]	課題の探究 [内容 2]	課題の探究 [手法]	コミュニケーション
5	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿が大変明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で大変参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために大変有効であった。	会話や議論を大いに楽しむことができた。
4	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿がますます明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上でますます参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにますます有効であった。	会話や議論をますます楽しむことができた。
3	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿が見えてきた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために有効であった。	会話や議論を楽しむことができた。
2	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿がまだ不明確に感じられた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上であまり参考にならなかった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにあまり役立たなかった。	会話や議論をあまり楽しむことができなかった。
1	本時の授業研究会を通して協働して学びを深める生徒の姿がほとんど明らかにならなかった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで、ほとんど参考にならなかった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにほとんど役立たなかった。	会話や議論をほとんど楽しむことができなかった。

2. 自由記述

本時の授業研究会の内容について、Round Study の手法についてなど、どんなことでも結構ですので、考えたこと、感じられたこと、ご意見など、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

先生方にいただいたご意見を集約し、成果物としてのニュースレターを後日配布します。

Round Study Round E

氏名

テーマ：グラフを活用して情報を的確に整理する力を高める（理科：〇〇教諭）

1. それぞれの項目について、あてはまるところを○で囲んでください。

評価	課題の探究 [内容 1]	課題の探究 [内容 2]	課題の探究 [手法]	コミュニケーション
5	本時の授業研究会を通してグラフを活用した表現力を高める方策が大変明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で大変参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために大変有効であった。	会話や議論を大いに楽しむことができた。
4	本時の授業研究会を通してグラフを活用した表現力を高める方策がまずまず明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上でまずまず参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにまずまず有効であった。	会話や議論をまずまず楽しむことができた。
3	本時の授業研究会を通してグラフを活用した表現力を高める方策が見えてきた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために有効であった。	会話や議論を楽しむことができた。
2	本時の授業研究会を通してグラフを活用した表現力を高める方策がまだ不明確に感じられた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上であまり参考にならなかった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにあまり役立たなかった。	会話や議論をあまり楽しむことができなかった。
1	本時の授業研究会を通してグラフを活用した表現力を高める方策がほとんど明らかにならなかった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで、ほとんど参考にならなかった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにほとんど役立たなかった。	会話や議論をほとんど楽しむことができなかった。

2. 自由記述

本時の授業研究会の内容について、Round Study の手法についてなど、どんなことでも結構ですので、考えたこと、感じられたこと、ご意見など、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

先生方にいただいたご意見を集約し、成果物としてのニュースレターを後日配布します。

令和2年7月20日（月）実施した校内研修Ⅱにおけるラウンド・スタディー参加者のコメントをまとめています。

Round Study1 協働して学びを深める（国語・〇〇教諭） のまとめ

◆〇〇先生のコメント

他教科と関連づけつつ、（今回でいうと古文と日本史）かつ国語的な思考法や解答の導き方を行わなければならないということに気づけたことが大きな収穫でした。先生方から貴重な、またユニークなご意見をいただき今後の授業をつくることがますます楽しみになりました。生徒の主体性を育てつつ、正しく文章を読む力をつけられるよう改善を行っていきます。ありがとうございました。

◆参加した職員のコメント

○教科における特色を用いた視点を定めて授業を作っていきたい。

○「学びながら深まる」とは？評価基準が難しい。

○「対話的で深い学びとは何か」や有効な授業方法について考えるだけでなく、教科の本質に迫るような議論ができたのが良かった。

○話しやすい雰囲気づくりの重要性を認識した。全員に話す機会があると、自分の意見や質問もかなりしやすいえ、勉強になったと思うタイミングが多くなるように感じた。

○教科内での授業研究と異なり様々な教科の先生方の教科特有の視点を話し合うことができて勉強になった。

○「学びを深めるとは？」何ができたと言っているのか。単純なことではないでしょうが、教科の視点を持って生徒の変化、動きを「みとる力をそれぞれが持つことが大切では」というグループ内の話し合いは大切な収穫であった。

○自由に話すことはよいことだと思うが文字を書きながらだと話が広がりにくそうフリーに話した方がよさそう。

○時間が足りず、内容をこれから深めていくというところで話し合いが終わってしまった。意見を集約するだけでも時間がかかるので、もう少し時間が欲しかった。

○他教科の先生や様々な年代の先生と話すことができ、視野が広がった。

○先生方とふだんこのように話す機会がなかなかないので、良い時間を過ごすことができた。

○他教科との関わりをたくさん持てたらと思う。授業においても横断的にできるといいと思った。

○教科を越えて話し合いができたことは大変良かった。いろいろなことで有意義な時間だった。日本史と古文、世界史と音楽等コラボできると素晴らしいと思う。楽しい授業（アクティブな授業）になるだろうと思う。

○教科を越えて実施したのは良かったと思う。「教科の枠を越えて授業をしよう」という話はいつも出るが結局実施できない（教員に余裕がない）

○本日は国語・理科の研究授業に参加し、生徒が主体的・協働的に学んでいく姿がどちらでも見ることができた。

自分の授業では昔ながらの一方通行的なやり方である。生徒が「主体的に学んでいく」には程遠いと感じる1日であった。できることから取り組んでみたいと思う。

○教科を超えて授業研究することがあまりなかったのでとても興味深かった。

○それぞれの意見を自由に出し合い、用紙に書き込むことでいろんな意見のつながりや分類ができることがよかった。改善点も前向きな意見として出されており、単に批判せずに進められたのがよかった。

○Round Study もワールドカフェと同じように意見や考えを共有するのに有効だと思った。

○アクティブラーニングに生徒は慣れており、やはり生徒を中心とした学習の方が意欲が高まり、学びが深まると実感できた。

○「深い学び」とは何か、というテーマで議論が盛り上がった。これから教科横断的な学びを取り入れた授業を模索することになると思うが、そのアイデアもいくつか出て興味深かった。

○地理の授業でも問題演習の時間はクイズ感覚で積極的に参加する生徒が多く盛り上がるが、生徒に作問をしてもらうことで知識も深まるので実践してみたい。

○生徒が主体的に活動する授業をめざしていきたいと思った。

○「教科を超えて」の話し合いは思っている以上に難しいと思った。

○意見を言いやすい雰囲気でよかったと思う。

○生徒が活発に活動する姿が印象的だった。

○生徒に作問させるという発想がすごい。

○自らの授業との比較などにより、授業改善などを考えるきっかけとなる点は良いと思う。

○“学び”とは何かを深く考えることができた。答えは出ていないですが・・・

○他教科の視点など刺激になった。

Round Study2 グラフを活用して情報を的確に整理する力を高める

（生物・〇〇教諭） のまとめ

◆〇〇先生コメント

自分の授業計画ではまだまだ足りない点に気づけました。（例えば問題数の精選や解答の仕方、展開の順番など）何を目的とするかによって授業計画も変わってくるということを改めて感じました。他教科の先生方に見ていただいたことで様々な視点からの授業改善に向けたアプローチが発掘されて貴重な経験になりました。このような場を設けてくださりありがとうございました。

◆参加した職員のコメント

○議論の方が楽しそうでした。ホストは緊張しました。

○「考え」や「知識」を深めるということが授業をしていて生徒が味わうべき大切なところであると改めて感じた。そのため「グラフ」や「表」を活用していくことは有効な手段の1つであると思う。ただ、授業で実践していく上では時間が多く必要なところが進度を踏まえると難点だと思う。

○グループ討議による思考の深まりについて考えるきっかけになった。

○課題の探究〔手法〕の欄の意味するところがよくわからない。

○小集団で話しやすく、意見や疑問点を発言しやすかった。

→たくさんの意見が出ることや他教科の先生方の意見を聞くことができるのは授業研究に大いに役立つと感じた。

○教科によって様々な視点があるため複数の目で一つの単元について意見を出し合うのは大変勉強になった。(有効だと感じた)

○今後は自分の教科についての疑問を他の教科の先生方にも相談していこうと考えた。

○平常時であればこのような研修はすべきであると思う。しかし、新型コロナウイルスの影響での長期休校、大雨での臨時休校があり、今後もコロナの影響での休校の発生が考えられる中、授業をカット（自習）してこの研修をすることはどうかと思う。

まずは今年度は授業時間の確保が大切で、今後のこの研修の中止などを考えてほしい。

○他教科の先生方からのアドバイスや意見が新しいものだったので視野が少し広がった。

○専門の教科でないものに対して意見するのは難しかった。

(教科によって生徒がよい考察をしているかなど判断しにくい)

○一般的な（汎用性のある）ことは専門の先生方だけでも意識すればまかなえると思った。

○むしろ専門教科の様々な先生方との意見交換の方が深まりそうだと感じた。

○もう少し他教科との連携のとれるアイデアが出ればと思った。

○人によって捉え方が異なり、グループで話し合い、それを全体で共有することで新しい知見を得ることができた。森田先生や長池先生が言われたトップダウン方式の授業方式はいろんな層の生徒にとって学びが深まる機会として有効であると思った。

○授業を進める上でまず大切なのはゴールをどこに設定するかということだと再認識することができた。

○情報を整理し表現する力と知識の落とし込みという2つを取り組むにはかなりの時間が必要だと感じた。

○問題を解いて文章化したものをお互いによく話し合っていた。

○事前に解かせておくことで話し合いがしやすくなっていた。

○他教科の授業の見方がいろいろあって参考になった。

○教師の指導と生徒の学び（活動）のバランスを改めて考えた。

○今回のテーマは生徒の学びの深まりだったと思うが、何をもって深まったと言えるのか判断が難しかった。グループで問題が解ければよかったのか。実験の結果から新たな疑問や仮説が生まれてくると思うのだが、それについてグループで話し合えれば学びはさらに深まるのではと感じた。

○アクティブラーニングによって生徒たちの考えが深まるが、時間がかかる事や準備が大変だがやってみたいと思った。

○職員研修で行うのであれば3年の理科の授業では研修は深まらないと感じた。準備をしていただいた先生方は本当に苦労されたと思うが授業を自習にしてまで行っている研修であることを考えてほしい。少なくとも教科によらず共通に議論できる内容で行うべきである。

○アクティブラーニングを実際の授業にどのように取り入れるかは難しい議題だが、今後は避けて通ることができないテーマになるだろうと授業を拝見して、痛感した。どれだけ自分の授業に活

かせるかわからないが積極的に取り組んでいこうと思う。

○今までの研究授業の授業研究に比べいろいろな意見（他教科の先生方の意見など）が聞け、参考になる点が多くあった。

○2時間自習にしたのでこの時期（今年）はあまりたくさんの職員研修は難しい。(授業時間確保の面で)

◆アンケートの結果

[34名]

評価	課題の探究 [内容1]	課題の探究 [内容2]	課題の探究 [手法]	コミュニケーション
5	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策）が大変明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上で大変参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために大変有効であった。	会話や議論を大いに楽しむことができた。
4	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策）がますます明確になった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上でますます参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにますます有効であった。	会話や議論をますます楽しむことができた。
3	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策）が見えてきた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで参考になった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくために有効であった。	会話や議論を楽しむことができた。
2	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策）がまだ不明確に感じられた。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行う上であまり参考にならなかった。	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにあまり役立たなかった。	会話や議論をあまり楽しむことができなかった。
1	本時の授業研究会を通して（協働して学びを深める生徒の姿・グラフを活用した表現力を高める方策）がほとんど明らかにならなかった。	本時の授業研究会は、自らの授業改善を行ううえで、ほとんど参考にならなかった	Round Study という手法は、本時の授業を視点に基づいて分析していくためにほとんど役立たなかった。	会話や議論をほとんど楽しむことができなかった。
5	29.4	36.4	26.5	50.0
4	58.8	45.5	64.7	32.4
3	8.8	15.1	5.9	17.6
2	2.9	3.0	2.9	0.0
1	0.0	0.0	0.0	0.0

◆ホストより

先生方の貴重な授業時間をいただき、初めて教科横断型の研究授業・Round Study による授業研究会を行いました。模造紙を囲んで教科の違いや年齢層の違いを超えて、先生方がそれぞれのテーマについて意見を出し合い、膨らませたり繋いだりして、ラウンドごとに議論が白熱していくところがとても印象的でした。本当にありがとうございました。今後も教科・学年・分掌などでも Round Study を導入していただける機会があれば幸いです。

授業参観記録シート

※記入後は、1枚を授業者に渡し、1枚を中央テーブル上の箱にご提出ください。

参観者氏名 ()

日時/場所	令和2年11月 日 ()	2校時/場所 (年 組 教室)
対 象	1年 組	教科 家庭基礎
授 業 者	先生	(科目)
参観しての気づき	・授業全体について【テーマ・目標の達成具合、授業の構成、授業者の工夫、生徒の様子等】 赤ちゃんの胎内動画、特にインスタグラムによる導入は生徒たちに本日の授業に対して「何をするのだろうか?」という興味を持たせたと思う。そこから「#親になるとは・・・」と持ってくるとはやはり若い先生ならではの発想だと思った。「本日のめあて」がわかりやすく生徒に伝わったと思う。 OALの基本は個→グループ→全体→個であるが、最初に「#親になるとは」を個で考えさせた後で、すぐにはグループにせずこの段階で何人かに答えさせたほうが個人のピフオーアフターがわかってよかったと思う。 ○進行役をなぜ教員が決定したのか? ○グループでまとめさせるとき(ワールドカフェ形式?) カラーペンの方があとの発表の時、見やすいと思う。(例えば、父親の立場→青 母親の立場→赤 両方→緑) ○後半だいぶ声が出てきたが、ひたすら無言で書いていたり、参加していない生徒がわずかがいた。 ○代表班に模造紙で全体に発表させた後、その他の班は色画用紙にキーワード(1, 2行)のみをまとめさせて、黒板に貼付してもよいと思う。 ○タイマーはもう少し拡大した方がよかったと思う。 ○来週の劇も見たいです。勉強になりました。お疲れさまでした。	
△チェック	■授業の冒頭で、「めあて(ゴール像)」が示された。 ■適宜、授業の「見通し」を生徒に示していた。 ■活動では生徒に時間を意識させていた。 ■生徒が安心して表現できる雰囲気づくりに努めていた。 ■生徒の発表は、全体に向けて行わせていた。 ■発表の際は、他の生徒に傾聴を意識させていた。 □授業の最後で、生徒自身に振り返りをさせていた。	

1. 日 時 令和2年6月19日(金) 4校時(11:55~12:45)
 2. 対 象 3年化学選択10名(男子3名・女子7名) 授業者
 3. 単元名 金属元素『アルカリ金属とその化合物』(本時: 1/5時間)

	授業の流れ	ほめポイント
導入	① <u>周期表の復習</u> PPを用いて周期表の復習を行う。 【予想される生徒の反応】 原子番号1~20を答え、金属・非金属のどちらであるかを答える。	1. 周期表を書き、金属と非金属の境界線を判断できているか。 ☐ 【実際の生徒の反応】 ※参観者記入
展開	② <u>アルカリ金属単体の性質・製法の学習</u> 既習事項や動画を活用しながら、アルカリ金属の性質をまとめていく。 【予想される生徒の反応】 アルカリ金属の炎色反応の色を答える。動画を見て納得し、取り扱いに注意しようとする。	2. 既習事項を思い出し、次の学びへとつなげようとしているか。 ☐ 【実際の生徒の反応】 ※参観者記入
	③ <u>アルカリ金属の単体と化合物の性質を調べる実験</u> 実験方法を考えさせ、反応の予測をさせる。廃液方法についても考えさせたい。 【予想される生徒の反応】 アルカリ性の指示薬を答える。	3. 実験方法や結果を予測し、実験に積極的に参加しているか。 ☐ 【実際の生徒の反応】 ※参観者記入
まとめ	④ <u>本時のまとめ・化合物の工業的製法の紹介・次の時間の予告</u> 生徒のその他の反応について ※参観者記入	ほめポイントの感想 ※参観者記入

【研究協議メモ】

農業と環境 指導案略案

1. 授業者 /
2. 日時・場所 / 令和2年12月4日(金) 2校時(9:55~10:45)
3. 対象 / 1年3組全生徒 (男子10名、女子25名 計35名)
4. 単元名 / 大根 収穫2回目

予想	実際
【発問】 前回収穫した有機質肥料を追肥した大根、今日は化成肥料追肥の大根、味はどう変わるか	
《予想される生徒の反応》 ☐ 苦味がます ☐ 変わらない ☐ 味がまろやかになる。 ☐ 大根特有の辛みが増す ☐ 大根が甘くなる	《実際の生徒の反応》
【発問】 大根の収穫2回目、前回より上手に収穫、調整ができるか。	
《予想される生徒の反応》 ☐ 足を踏ん張って大根を収穫する ☐ 腕だけで収穫するが抜けない ☐ 踏ん張れず収穫を他の人に依頼する ☐ 大根を上手に水洗する ☐ 大根の葉と先を上手に切る	《実際の生徒の反応》
【ほめポイント】 1. 大根の味をしっかりと覚えていたか 2. 前回の実習を踏まえて改善できたか 3. 実習記録を分かりやすく書いているか	《ほめられた時の生徒の反応》
《生徒に関する気づきやその他生徒の反応について》	
《参考になった・まねしたいポイント》	

授業研究まとめ

研究授業の準備&実施お疲れさまでした。良いところは皆で共有したいと思いますので、グループミーティングの内容をまとめてご提出をお願いします。

月 日 授業者（ ） 科目（ ）

1. 「問い」について、先生のアクション（働きかけ・仕掛け）に気づきや発見がありましたか。

2. 「ほめポイント」について、先生のアクション（働きかけ・仕掛け）に気づきや発見がありましたか。

生徒のリアクションに気づきや発見がありましたか。

生徒のリアクションに気づきや発見がありましたか。

3. ご自分の授業で活かす・参考にする・取り入れるとしたら、どんなことですか。

〇〇or△△へご提出ください。
ありがとうございました。